

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001206		
法人名	特定非営利活動法人オリーブの園		
事業所名	グループホームひより南		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護(介護予防含む)		
所在地	大阪府豊中市曽根南町2丁目7番14号		
自己評価作成日	2023年3月1日	評価結果市町村受理日	2023年4月10日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/277/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=2774001206-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	2023年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひより南は入居から看取りまでの安心・安全を、介護、医療、看護の連携で支えています。また、音楽療法をはじめとしたケアの専門性を持って認知症の方の安心した暮らしを支えています。コロナ禍のため、まだまだ地域の中に出て行くことは困難ですが「共に生きる」という理念の実践のため「何ができるか」を考え、時代変化に応じた福祉の実践にNPOとして取り組んでいます。共に暮らす仲間として、一日一日を大切に、明るく笑顔の絶えないグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元女子寮を改装したホームの玄関や居室のドア付近は、ピーターラビットをコンセプトに、うさぎたちが遊ぶプレートや花が飾られた木靴が掛けられ、優しく温かな空気を運びます。素朴で可愛いキャラクターは落ち着いた雰囲気を出し、花の世話をする動機付けにもなっています。法人が所有する田や畑が能勢にあり、職員が育て収穫した米や野菜は、日常の食卓に新鮮な旬の味覚を提供しています。また、趣味や特技を持つ職員が多く、企画やケアにも活かされ、日々の生活に取り入れて、利用者の持っている力を引き出すことができます。職員と利用者が一緒にやり得なことを発揮することで生まれる相乗効果が暮らしの中に広がり、喜びに繋がります。個々の事業所が単独で企画運営をするのではなく、法人が持つ強みを活かし、地域社会の資源を巧みに取り込み視野を広げ、ひとつにまとまり力を共有し、また分散して、地域に根ざした幅広い支援活動を展開し、地域社会と共存しています。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、ミッションステートメントや新人オリエンテーション、施設内掲示、年標語等でも共有し実践している。	理念の実践を目指し、職員憲章九ヶ条を定め、心の有り様を示しています。毎日の朝礼では、「利用者に寄り添い誠実であり・職員は仕事に誇りを持ち・爽やかな職場環境を作り・健やかに過ごす・(抜粋)」などの心得を読み上げ皆で目標に向かっています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、地域交流は少なくなっているが、コロナ収束後には、校区福祉委員会や公民分館の行事などに参加を予定している。地域からは回覧板や福祉だよりを届けて下さったりタオルなどの寄付も頂いている。近所での評判を聞いて相談に来られる方もいる	街かどデイハウスハーモニーでは、感染予防を図りながら、デイハウスの介護予防の利用者との交流があります。断捨離をして提供された衣服を活用し、和の小物の作品を作り地域の文化祭に出品をしました。ディの店先で販売している焼き芋も「おいしい」と地域で人気があります。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアさんの手作りのマスクを販売したり、啓発パンフレットの配布をしている。介護事業所を活用した就労支援プロジェクトを展開しており、介護人材を育成している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため、運営推進会議の対面の会議は中止している。グループホームの取り組みをニュースレターや冊子を送る等で、運営推進会議のメンバーには状況を伝えている。今後はZoom等ハイブリッド会議も検討している。	対面での会議は中止され書面開催が続いていましたが、コロナ感染予防の行動制限も緩和される6月からは、参加人数を限定して対面での会議を開催予定です。書面開催時に寄せられた意見を集約してホームからの回答や意見と合わせて記載し、令和4年度の年間報告として各委員に配布しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナクラスター時には市役所、保健所等の協力を得ながら、積極的に取り組み、乗り越えることが出来た。	コロナ感染時は保健所から届いた支援物資で乗り越えることができました。運営推進会議で出された意見も市が関わる内容があれば伝えて相談しています。法人が取り組んでいる就労支援事業の利用者が仕事に定着して頑張っている姿も見られます。

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のQOS(クオリティ・オブ・スタッフ)委員会があり、身体拘束については、任命された人権対策虐待防止委員がスーパーバイズを受けながら、多様な研修の組み立てや提供を行い、コンプライアンスを守っている。	QOSの会議を3ヶ月に1回開催しています。参加委員が提案を行い、解決に向けて検討をしています。皆で選んだ用語集を参考にし、気づきを促し意識改革に繋げ、不適切ケアを防止しています。用語集の何気ない言葉には面白みや親しみを感じることができ、型通りの文よりも伝わりやすく、ケアの実践にも役に立っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止として、日々朝礼時に不適切ケアを自分事として感じられるような用語集の読み上げを習慣としている。日常の小さな接遇にも注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や自立支援事業については、必要な方にはサポートしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時についての不安に寄り添える様に、医療連携や看取りについては、特に留意して説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、介護計画書のご意見欄に記入できるようにしており、謝意を含めQOS苦情委員会で情報を共有している。ホーム内には目安箱も設置している。	利用者の自治会を作っています。2ヶ月に1回開催し、食べたいもの、行きたいところなど利用者自ら希望を伝えています。家族会でも、意見が出やすく、また施設に伝えやすい環境にあります。コロナ感染が広がり対策品が不足になったときには、家族会から消毒液など寄付の協力があり助けられました。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	組織内の風通しを良くするためのQOS委員会を設け、リバーシノベーションを運営の基本としてメンター型の体制を取っている。職員間でも意見交換をして内容を職員会議で公表している。	研修では認知症ケアやアンガーマネジメントを学び、実際の介護現場に活かすことで、職員は自分に自信を持つことができています。スキルアップをする場の提供により、職員のチームワークも保たれて、利用者の生活の質向上につながっています。自分の特技や前向きな姿勢を見つけ応援してもらえることが職員の励みとやる気を支えています。	
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	専門的アドバイザー等の研修担当者を置き、各自が向上心を持てるようにアドバイスの可視化に努めており、キャリアパスも導入している。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ジョブエンリッチメントを目指した職員の人材育成のシステムがある。個々に必要な資格取得や研修の機会を提供している。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にあり、積極的な事業所間の交流は出来ていない状況である。コロナが収束した後は近隣のグループホーム等との交流を図って行きたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の時より、本人の生活歴等の情報を参考にしながら、要望や不安な事も意図的に聞き出せるように努め、ラポール形成を図っている。		
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護相談の時より、看取りや経済的な事など、触れにくい話にも初期から積極的に耳を傾け、レジリエンスを視野に信頼関係を築いている。		

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前は介護相談の機会があるため、入居を前提とした具体的支援についての社会資源や情報の活用方法等に努めている。			
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で利用者からの様々な学びも多くある。職員は利用者の強みを活かすケアに留意している。			
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は本人を支え合うパートナーであり、家族の役割を尊重している。本人満足は家族満足であり、それは職員満足につながる事を理解している。			
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のそれまでの生活歴や地域での暮らしを、グループホームに入居しても継続できるように、手紙・電話・面会・Zoomリモート等の支援をしている。近所の友人と電話をしたり手紙や差し入れなどを持ってこられる利用者さんもある	携帯電話で家族と連絡をとる利用者もいます。誕生日には手紙やプレゼントが家族や友人から届き、手紙や電話でお礼が伝えられるように支援をしています。感染予防の行動制限の緩和が進めば、対面での交流を徐々に再開していく予定です。		
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間での過ごし方や席など利用者間の関係づくりに細やかに配慮している。レクリエーションや作品作りなど気の合う友達づくりを通したマッチングなどに配慮している。			
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても、情報提供する事や、お亡くなりになられてもグリーフケアとして相談や支援に努めている。年賀状などで近況など状況をお知らせしている方もいる			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			人ひとりの思いや暮らし方の希望は認知症があることから表出は難しいが、利用者間での自治会があり、思いの意向をくみ取れる場や機会となっている。	隔月に開催する利用者自治会の場でも「食べたい・やりたい・行きたい」などの思いをくみ取る事ができ、実践に繋がっています。野菜の皮むきに始まり、味噌や甘酒作り、折り紙、絵本、お茶席など腕に覚えのあることを、また音楽療法では楽器や音とふれあうことを大切に、できること興味のある好きなことを共有して楽しんでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			介護相談・入居相談の時点に、これまでの暮らし方や生活歴を、又、入院や介護サービスを受けている方は担当のケアマネージャーや病院のMSWより情報を収集し、これまでの経過等の把握に努めている。生活保護の方は生活福祉ケースワーカーとも連携している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			日々のミーティングやカンファレンスにおいて現状把握をしているが、ベースは職員の気づきの質が重要であり、異常・問題・課題の早期発見と、報・連・相により、QOLの向上に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			チームでの情報共有ツールとしてカーデックス方式を採用している。計画は家族の意見も反映できるように電話での意見交換も行っている。計画は健康や・認知症ケアなど日々のミーティングやカンファレンスを通してチームでの情報共有を図りながら現状に即した計画作成を行っている。	日々のモニタリングやミーティング、利用者の診療情報や介護計画などを一覧できる方式、カーデックスで状況の共有を図っています。個人記録には、集めた身体情報が一目でわかるように1ヶ月の推移が記録されています。介護計画はシナリオ形式を導入、「しなければどうなるのか」と予測的に考えた上で観察を行うことにより、職員にも内容がよりわかりやすく伝わります。介護計画表は各項目イラスト付きで、目標が明確に表現され、介護記録には利用者の言葉がそのまま記録されています。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は電子カルテの活用によりモニタリングがスムーズであり、定期的なカンファレンスで問題の抽出を行っている。管理者・リーダーは記録物の点検を定期的に行っている。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人の特色とする音楽活動を療法としてレクリエーションや看取りの場面においても活用している。又、音楽療法学科の学生の実習施設となり、若い人とのふれあいや交流を促進させている。介護を目指す人の就労支援の場ともなっている。今後は伴走型認知症相談室も開設予定である。			
29				○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は校区福祉委員会や公民分館などのイベントを活用し、出来るだけの参加を促してきたが、コロナ渦中であり中止している。			
30	(11)			○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に伴い、かかりつけ医から医療連携医へと移行するが、24時間365日の相談や医療を受ける事ができる体制をとっている。入居前のかかりつけ医にも引き続き受診できるようサポートもしている。	医療連携医の定期的な訪問診療は2週間に1回ですが、情報交換は毎週の訪問時に行っています。看護師も配置や整った夜間緊急時の24時間のオンコール体制は家族の安心に繋がっています。また週1回、歯科医の往診があり、口腔ケアの技術的助言や指導を受けています。訪問リハビリを受けることもでき、入居前のかかりつけ医への継続受診も可能です。今後の感染症に対応できるように減圧室を2室整備しました。		
31				○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師がおり、介護職は医療的ケアについての質問やアドバイスを受けることが出来ている。24時間365日のオンコール体制である。			
32				○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携体制の中で、MSWとの情報交換を主に、入退院の調整を行っている。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携や看取りケアは加算体制をとっている。より分かり易い説明が出来る様に、イラスト等を活用して情報を伝えている。	入居面談時に重度化に向けた説明を行います。看取りケアは、終末期に起こりうる身体の状況の変化をイラストも使ったわかり易い内容で、家族に説明を行い、了承を得ています。その上で、家族の意向をその都度確認しながら、医師、看護師、職員も交えて話し合い、できるかぎりの支援をします。看取り後はデスクカンファレンスを開き、良かったことや反省点など振り返って意見を出し合い、今後の看取り支援に繋げています。また、思い出の写真集を作成し、家族へ贈っています。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署での救命トレーニングを受講しており、急変時や事故における報・連・相の体制もある。急変時のエマージェンシーコールのトレーニングも行っている。					
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全員分のライフジャケットや防災頭巾を準備している。災害時は避難所での感染予防のため施設内での垂直避難も視野に入れている。地震・火災・台風と災害により対応が異なる事や、最近の台風の大きさ等により、今後は様々な災害を想定したサバイバルトレーニングも実施予定であり、予防的な早期避難も検討している。又、BCPマニュアルを整備している。	年2回定期的に地域自治会や消防署の協力を得て実施していました。コロナ禍の中では「消防訓練届出書」の提出と報告をしています。これまでの「消防署からの改善指示書」もファイルされ災害対策委員会で見直しを図り、様々な災害発生時マニュアルを作成しています。防災頭巾やライフジャケットは、各利用者の部屋に置かれています。災害時の飲料水や食料は賞味期限を明記し、衛生日用品と共に3日分以上を備蓄しています。BCPを策定し「被災時フォーマット」も準備しています。				

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援									
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			職員憲章に「重いものは軽く、軽いものは重く扱う思いやりを持つこと」という項目があり、憲章に基づき、その場の状況に応じたさりげなく自然な声かけをモットーに、一人ひとりの尊重とプライバシーについてのホスピタリティーを実施している。	職員は職員憲章9ヶ条に基づき、利用者ひとり一人の意向やプライバシーを尊重した声かけ、対応を心がけています。9ヶ条のひとつに【皆同じ土台を持つ人間として「あなたが嬉しいと私も嬉しいと、思えることはすばらしい」と感じられる人になること。】とあります。職員憲章は、常に携帯して行動原則とし、質の高いサービスに取り組んでいます。人権や接遇、倫理についての研修も受講しています。身だしなみやおしゃれの支援にも注力し、今までの生活の継続を大切に、化粧を続けている女性利用者もいます。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			暮らしの中では、食べ物や飲み物、着るもの、行きたいところ等、小さな事も自己表出・自己選択としてとして支援している。ホームには自治会があり、食べたい物ややってみたい事など、自己表出の場となっている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している			認知症の方の気分はその日の体調等により変化していくため、本人のペースに沿って適宜に支援している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			ボディイメージを保つことも尊厳であり、洋服だけでなく髪の清潔、お出かけ時のTPOに応じたお化粧などもトータルに支援している。				

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感やイベント感のある食事を計画している。食器拭きや後片付けなどは生活リハビリとして職員と一緒にやっている。職員のファーマーズクラブが野菜をたくさん栽培しており、収穫した野菜も楽しみにしている。	職員によるファーマーズクラブが栽培、収穫した旬の野菜が食卓に上り、職員・利用者共通の楽しみのひとつになっています。2カ月に1度の利用者自治会の会議では「食べたいもの」の要望も挙がり、それをもとに、栄養面や嗜好に考慮し、職員が献立を立案しています。食事の準備や片付けは、生活リハビリテーションの一環として職員と一緒にしています。また、四季折々の行事食やおやつ作りを楽しんだり、スタッフと一緒に毎年味噌を仕込んだりしています。ファームで収穫した大豆を使って自分たちで作る味噌は、味も格別に美味しいと好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の質の向上に向けて、グループホーム協会と栄養士会との共同事業に参加している。栄養摂取や水分確保の量は、個々に応じて計算されている。目標の摂取に至る様に個々に応じて摂取の方法の工夫を行い、摂取確認を申し送りで行われている。毎月、栄養士会との連携により、カロリー等の連携会議を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による専門的口腔ケアを行っている。口腔ケアに関する技術的助言・指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせたコンチネンスケアを目指して、本人の排泄習慣・排泄時間等を把握して誘導している。プライバシーや臭気等にも配慮している。ご自身で排泄表をつけている方もいる。各居室にトイレがあることも自立に繋がっている。	職員は利用者の排泄パターンや習慣を把握し、トイレでの排泄を基本として支援しています。声かけやトイレ誘導時には、プライバシーや尊厳を損ねないよう配慮をしています。各居室にトイレがあることで自立にも繋がりが、トイレのドアに貼った排泄表に自分でチェックしている利用者もいます。排泄状況はわかりやすい表示で、自己チェックをすることで排泄が改善した事例もあります。	

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44				○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に夏と冬は脱水を起こしやすく、便秘になりやすい。個人個人の水分摂取目標を立て、日々摂取状況を確認している。モーニングティーやナイトティーなど自然に水分が摂れるようにも工夫している。便秘に関して指示意図も情報交換している。		
45	(17)			○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は清潔にするというだけでなく、非日常のホリデーリラックスタイムやコミュニティ形成という場もある。個人個人の好きなシャンプーや入浴剤に応じる事や標準ケアから個別ケアまで幅広く対応している。菖蒲湯やゆず湯などの行事浴も提供している。	入浴は週3回を基本としていますが、希望があれば柔軟に対応しています。浴室が広く仲の良い利用者が2、3人で一緒に入ることもあります。入浴を好まない利用者には、原因を考え、徐々に楽しみに変わるよう工夫を重ねています。ゆず湯や菖蒲湯などの行事湯もあり、利用者に喜ばれています。個人の好きなシャンプーやボディソープ、入浴剤の持ち込みもできます。	
46				○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「離床が良い」という名のもと、職員都合で車椅子に放置する等は不適切ケアであり、認知症を持つ利用者にとっては、体も心も疲れやすい。個々のペースに応じた休息が必要となるため、適切に状況に応じた活動と休息の生活を支援している。		
47				○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬ボックスへの配置は薬局薬剤師にお願いしている。毎時の投薬箱へのセットや配薬は基本は看護師が行っている。服薬時は呼名のダブルチェックを行うなど、誤薬の予防に努めている。		
48				○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリとして、清掃・洗濯たみ・調理の下ごしらえ・おやつ作り等を職員と一緒にやっている。作品作りなどの趣味活動や季節の飾りつけなども楽しみながら気分転換になっている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状はコロナ感染予防のため、外出支援は積極的ではないが、法人内の行事に出かけたり、日常的には玄関の水撒きをするなど、外に出る機会を支援している。	コロナ禍で外出できない中、法人内の行事への参加や、日常的に玄関の水まきをすることで外に出る機会を作ってきました。利用者の自治会や家族会の要望をもとに、年間を通じて利用者主体の四季折々の外出行事を企画するように心がけています。外出ができないときは音楽療法で、心や頭を潤し体を動かし活性化を促しています。職員は早くコロナが収束することを願っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は、近所のスーパーなどでお買い物場面を支援しているが、コロナ禍中のため出来ない。安全を図りつつ、法人内の焼き芋などの買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から贈り物があったときなど、ご本人にお礼の電話をかけて頂いたり、電話を取り次いだりしている。年賀状の書くなども支援している。個人で携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で明るい雰囲気を大切にしている。ホーム内には有線音楽やCDなどで心地よい音楽や懐かしい曲が流れている。花や緑、季節の飾りつけなど、リラックスできるよう工夫している。	ホームの入り口にはオリーブなどの観葉植物をおき、玄関から廊下には明るい色のカーペットを敷いています。つまづかないように室内履きは使用していません。玄関から入ってすぐの壁に貼られた美しい写真が目を惹きます。食堂兼居間は家庭的で温かい雰囲気があり、廊下には長椅子、ソファが置かれ、思い思いにゆっくり過ごせる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には趣味の本やテレビ、CD、レクリエーション用品を置き、利用者さんとおして、また一人で趣味を楽しめるように配慮している。廊下ソファでゆっくりと過ごしている方もいる。		

己	自部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具等を持ち込まれて、慣れ親しんだ環境づくりを心掛けている。趣味のものを飾ったり、お好きなぬいぐるみを置いたり、また、好みのカレンダーを提供する等の工夫もしている。	各居室の入り口には「一歩一歩元気に歩けますように」と願いが込められた木靴を掛け、木靴には花が飾れるようになっています。居室にはエアコンとトイレ、洗い場(ミニキッチン)の設備があります。入居時には使い慣れた家具やテレビ、写真類、趣味の品などを持ち込む事ができます。愛着のある品に溢れる部屋もありますが、それぞれに、その人らしいこだわりを感じるレイアウトになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひより南ツアーがあり、安全に対してやストレッチの視点などスタッフが積極的に探す日を設けている。廊下にソファを置くことで寛ぎと同時に転倒予防にもなっている。玄関の段差にはインテリアライトを置いている。		